

新たな運営方針を具現化するための中期行動計画（第1次）

（案）

平成31年（2019年）2月1日
熊本県立図書館

これまで当館は、平成22年度(2010年度)に策定した「熊本県立図書館運営基本方針」に基づき運営を行ってきました。

このたび、社会の変化や時代の要請等を踏まえて当館の運営方針を見直し、「熊本県立図書館の新たな運営基本方針 ～ 知恵と力を生み出す「知の拠点」へ ～」を策定しました。この新方針の具現化を図るために、これからの5年間において当館がめざす目標等を設定した中期の行動計画を今回策定しました。

今後は、この計画に基づいて施策を展開し、年度ごとに成果や課題の検証を行い取組の改善を図りながら、県民や利用者のニーズに対応できるよう努めてまいります。

《基本理念》

熊本を支え、発信し、創造する県立図書館
～ 知恵と力を生み出す「知の拠点」へ ～

《運営方針》

- 1 熊本の暮らしを支える
- 2 熊本の学びを支える
- 3 熊本の文化を発信する
- 4 熊本の未来を創造する

《具体的内容》

1 熊本の暮らしを支える

- ・市町村図書館等との連携のもと、全県域を対象にした、県民の暮らしを豊かにするための読書の推進等につながるサービスを提供します。
- ・県民の生活や仕事の上での課題の解決を支援するためのサービスの充実を図り、情報面の面から県民の暮らしを支えます。

《重点取組事項》

- ① 全県域への資料(※1)の提供
- ② 市町村立図書館等への支援
- ③ 資料や各種サービス等の周知と利用の拡大

【成果指標と数値目標】

成果指標	現状	5年後の目標 (2023年度末)
・総合的な満足度(※2)	73% (2018)	80%
・相互貸借(※3)の貸出冊数	1,379冊 (2017)	1,500冊
・相互貸借の市町村カバー率(※4)	44.4% (20/45 2017)	60%
・団体貸出(※5)の利用件数・貸出冊数	115件・27,633冊 (2017)	130件・30,000冊
・研修会(※6)の実施回数・参加人数	8回・450人 (2017)	16回・800人

※1…図書、新聞、雑誌、地図、視聴覚資料、デジタル資料など、図書館が収集し提供する媒体の総称。

※2…利用者アンケートにおいて、当館の総合的な満足度についての設問に「満足」・「やや満足」と回答した人の割合。

※3…利用者が求める資料を提供するために、図書館間で資料を貸し借りすること。

※4…県内市町村(平成29年度(2017年度)現在45)のうち、相互貸借制度を活用して当館の資料を貸し出した市町村の割合

※5…市町村立図書館等や学校などの団体利用者に対して図書館の資料を大量に貸し出す事業。当館では、利用対象や貸出期間、貸出冊数の上限等がそれぞれ異なる「一括貸出」、「配本協力」、「子ども文庫」の3種類の団体貸出事業を実施している。

※6…当館が主催または共催で開催する研修会及び当館職員による出張講座等。

2 熊本の学びを支える

- ・熊本で暮らす人や熊本で働く人々の知的ニーズに的確に対応するなど、熊本における人々の学びを支援するためのサービスの充実を図ります。
- ・熊本県民はもとより、県外や海外の人々の、熊本について知りたい・学びたいというニーズに対応するなど、熊本についての学びを支援するためのサービスの充実を図ります。

《重点取組事項》

- ① 調べる活動の支援
- ② レファレンス(※7)の充実
- ③ インターネット等を活用した情報の提供
- ④ 熊本に関する資料や情報の充実

【成果指標と数値目標】

成果指標	現状	5年後の目標 (2023年度末)
・レファレンスの件数	6,992件 (2017)	(精査中)
・レファレンスの満足度(※8)	65% (2018)	80%
・ホームページのアクセス数(※9)	156,950件 (2017)	250,000件
・当館利用団体等による発表会(※10)の実施回数	0件 (2017)	10件

※7…何らかの資料や情報を求めている利用者の質問や相談に対して、図書館職員が図書館の資料やネットワークを活用して、回答となる情報を提供したり、回答の含まれる情報源を指示・提供すること。参考業務ともいう。

※8…利用者アンケートにおいて、レファレンスの満足度についての設問に「満足」・「やや満足」と回答した人の割合。なお、今後はレファレンスの利用者に感想の記入を依頼するなど、方法を工夫して満足度を計ることとする。

※9…トップページへのアクセス件数。

※10…当館や文学・歴史館の資料を活用した研究等の成果を一般にも公開して開催する発表会。

3 熊本の文化を発信する

- ・熊本の文学と歴史に関わる貴重な資料を確実に未来に継承するための取組を進めます。
- ・先人たちが遺した優れた文化を、郷土熊本の魅力として広く県内外に発信する取組の充実を図ります。

《重点取組事項》

- ① 貴重資料等の修復・修理の推進
- ② 貴重資料等のデジタル化と提供
- ③ くまもと文学・歴史館との連携

【成果指標と数値目標】

成果指標	現状	5年後の目標 (2023年度末)
・貴重資料等の修復資料点数(※11)	4点 (2017)	30点
・貴重資料のデジタル化点数	5,897点 (2017)	7,000点
・郷土資料の利用提供数(※12)	10,252点 (※13)	11,300点
・文学・歴史館入館の当館利用への影響度(※14)	37% (2018)	50%

※11…2017年度現在の数値は館外委託による修復点数のみ。5年後の目標値は館外委託による修復と専門技術者の指導を受け当館職員が修復・修理したものを含む。

※12…利用者の求めに応じて3階第2閲覧室の閉架書庫から出納した郷土資料の数。

※13…現状値は平成28年度を除く過去5年間の平均値。

※14…利用者アンケートにおいて、文学・歴史館に入ったことがその後の当館の利用に結びついたかどうかについての設問に「あった」と回答した人の割合。

4 熊本の未来を創造する

- ・子どもたちの読書活動の推進など、人生をよりよく生きる力と熊本の将来を担う力を身につけた子どもの育成につながる取組の充実を図ります。
- ・各種図書館等の関係職員の資質や技能の向上につながる取組や図書館の未来の姿を提案するための取組を推進します。

《重点取組事項》

- ① 子ども図書室の取組の充実
- ② 学校図書館への支援の充実
- ③ 図書館職員等の研修の充実

【成果指標と数値目標】

成果指標	現状	5年後の目標 (2023年度末)
・子ども図書室の貸出冊数	79,264冊 (2017)	90,000冊
・おはなし会の参加者数	1,415人 (2017)	1,500人
・子ども文庫(※15)の利用件数・貸出冊数	26件・7,813冊 (2017)	35件・10,000冊
・研修会の実施回数・参加人数 (再掲)	8回・450人 (2017)	16回・800人

※15…団体貸出の一つ。子ども文庫専用の書架を有し、市町村立図書館等や小・中学校、特別支援学校、幼稚園・保育所、読書ボランティア団体等を対象に、最長1年間、最大500点の資料を提供している。

◎総合指標(※16)：当館入館者数① + 文学・歴史館入館者数②

現状(2017)		5年後の目標(2023年度末)
238,684人		300,000人
内訳	① 207,491人	
	② 31,193人	

※16…4つの運営方針の具現化をめざして展開する様々な取組の成果を総合的に評価するための指標。